

(社)日本技術士会 原子力・放射線部会  
(社)日本原子力学会 原子力教育・研究特別専門委員会 共催  
平成17年度技術士試験合格祝賀会  
報告

1. 日時:平成 18 年 3 月 10 日(金)18:00 ~ 20:10
2. 場所:日本技術士会 荻手第二ビル 5 階会議室
3. 出席者:

[来賓] 工藤教授(九州大学大学院、日本原子力学会原子力教育・研究特別専門委員会主査)、  
成合理事長(原子力安全基盤機構、元日本原子力学会会長)

[日本技術士会] 永田副会長、畠山常務理事

[合格者] 佐藤俊文、岡村章、平川博將、徳山龍俊、若林正人、園田幸夫、伊藤晴夫、上坂昌生、  
杉原豊、浜崎学、山田基幸、千代亮、加藤和之、大森良太、鳥飼誠之、青木照美、吉行  
健、松原昌平、白川正広、横堀仁、酒井宏隆、室井勇二、日暮浩一(以上2次試験合格  
者)、嶋田昭一郎、佐藤隆彦、柳川玄永、武内幸生、熊谷孝三、斉藤勇(以上1次試験合  
格者)

[他部会員] 富永研司

[部会員] 浅野、大橋、川崎、栗原、桑江、佐川、佐々木、辻、成川、林

#### 4. 議事

永田副会長挨拶:技術士は、技術者の一番上にランク付けされる資格ということで、合格されました  
皆様方、おめでとうございます。我が国では、第3期の科学技術基本計画が今  
年度からスタートしようとしており、その予算は総額25兆円と聞いています。内  
容は、どちらかという物から人へ、色々な機関で働く個人を重視しようという色  
あいが強く出ているように感じられ、まさに、技術士が期待されています。技術  
士法の第2条の精神に則って、皆様方がそれぞれの職域で、あるいはポジショ  
ンで縦横無尽に発展ご活躍されることを祈念申し上げます。

工藤九大教授挨拶:二次試験は去年の数倍の合格者を出しました。昨年と今年を合わせて約 100  
名の合格者が出たということで、今後、部会へ入られる方も多いかと思えますの  
で、益々の活躍が期待できます。一次試験の合格者の方々にもこれだけの先  
輩がおられるというのは非常に心強いことです。是非、頑張ってくださいと思  
います。この制度を創りました原子力学会としても技術士制度を活用さ  
せることは使命の一つと思っています。今後は合格された方々としてのご意見  
やアドバイスを是非お願いしたいと思います。また、技術士制度の立ち上げに  
私たち委員会の活動が認められ、春の原子力学会で貢献賞をいただくこと  
になりました。これもまた皆様を代表して頂いたもので、学会で評価されたことを  
大変嬉しく思っています。

成合理事長挨拶：本年度合格されました皆様方、大変おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げるとともに、原子力にはまだやるべきことが多いと思いますので、皆様のご尽力でさらに原子力界が発展することを期待しています。私が日本原子力学会長の時に、原子力分野の技術士制度創設に係わりを持ちましたので、技術士、特に原子力・放射線部門がどうなっていくかということに大変関心があり、思い入れも深いです。昨年6月に早くも原子力・放射線部会が設立されたことで関係者の熱意に感服いたしております。現在の高度技術依存社会において、専門技術者の重要性と資格社会の必要性が感じられます。特に原子力のような広い仕事において、技術士資格を資格社会の中へどうやって実際に浸透させていったらよいのか考えていく必要があります。JNES は、専門家集団と標榜しているのですが、技術士2次試験の合格を今年は実現しませんでした。平均年齢が50歳を過ぎているので試験勉強が難しいようです。設立から2年ちょっと立ちましたのでこれからは少し落ち着いて資格をとろうかという人が出てくるのを期待しているところです。是非、この部会が益々発展され、また、今回合格なさった皆様のお祝いを申し上げて私の挨拶とします。

畠山常務理事の乾杯挨拶：皆様、今年度の合格まことにおめでとうございます。心からお祝い申し上げます、歓迎申し上げます。日本技術士会の一番の売りは、こういう皆様方の交流と、原子力放射線部会以外にもたくさんの部会がありますので、大いに技術士ライフを見出して皆様方の楽しい人生を送っていただきたいと思う次第です。それでは、技術士会の特徴としましてはコミュニケーションと飲みニケーションですので、大きな声で乾杯したいと思います。皆様、合格まことにおめでとうございます。乾杯。

#### (1) 林部会長による原子力・放射線部会の活動紹介(添付資料参照)

原子力・放射線部会は昨年6月24日に設立され8ヶ月たったところです。工藤先生、成合先生からすでにお話いただいたのですが、技術士に原子力・放射線部門が設置された経緯をお話し、部会設立とその後の活動について、さらに将来部会が目指すもののお話をさせていただきます。

原子力・放射線部門は平成13年に原子力学会長から設置要望書が出されてから2年弱で技術士法関連規則・告示の改正が行なわれ、翌平成16年度には第1回目の試験が行なわれました。これは制度への期待の大きさの現われであると感じています。

部門設置答申では、大きく4つの期待が記されていますが、それを具体化する仕組みがまだ出来上がっているわけではありません。そこで、部会を設立し、「技術士制度活用の具体化」「必要な技術士数確保」「活用策に応じた継続研鑽」を3本柱に活動を進めることになりました。

「制度活用の具体化」としては、活用策の部会内検討、米国PEと建設部門活用例の講演、意見交換会を実施し、3/25には原子力学会と共催の総合講演を行います。

「必要な技術士数確保」としては技術士制度と試験の解説記事を原子力関係雑誌に掲載したり、原子力関連組織や大学に受験を勧めるための行脚を行なっています。

「活用策に応じた継続研鑽」では例会講演会を4回行い今後は研鑽メニューの検討も行なう予定です。これらの活動を内外に知らせる広報活動も関連雑誌への投稿やMLを使って行なっています。

ここに原子力・放射線部門の技術士の将来を考える2つのシナリオを示しました。

右は部門が死に至るシナリオです。人数が増えたらばちばち制度の活用検討を始めるかというやり方では、合格しても名刺に書くだけとなり部会はサロンと化し、受験者はさらに減るという悪循環です。我々はその逆の左のシナリオですすめないといけない。つまり、原子力・放射線部門の技術士制度が公益に繋がる好循環です。

昨年から今年にかけて二次試験合格者は増え、このペースで来年再来年につなぎたいのですが、一次試験合格者が今年は息切れして半分になってしまいました。一次試験については来年再来年で初年度のペースに戻す必要があります。

皆様の特にお忙しい3月に祝賀会を開催させていただいたのは、この意味、つまり平成18年度の2次試験の申込みが始まる時期だからです。是非同僚の方、お知り合いにも受験を勧めてくださるようお願いいたします。

今からできる3つのお願いがあります。最初に部会に入って、部門が世の役に立つ仕組みづくりに参加していただきたいこと、平成18年度受験を勧めて戴きたいこと、最後に重要なことですが本日の懇親会に参加いただきたいことです。

## (2) 桑江幹事による制度活用について

部会では原子力・放射線技術士制度の活用について検討してきました。自主的安全審査における技術士の関与、社会とのリスクコミュニケーションにおける活用、原子力・放射線の知識普及・啓発のための講師などいくつかの提案項目も挙がっています。しかし、まだまだ十分な議論ができたとは言えません。是非、平成17年度合格者の方に制度活用の議論に加わって頂き、さらにアイデアを拡張し、具体化を図っていきたくと思っています。

今後は、関係各方面への「要望」からさらに発展し、「私たちはこういうことができます」という「提案」へ。さらには個人レベルも含めた「行動」により、社会からの信頼確保へと繋げていきたいと思えます。そうすることで、自ずと技術士制度の活用策も広がっていくものと考えます。

## (3) 自己紹介

(合格者と部会員が一人1~2分で自己紹介した。)

## (4) 写真撮影

## (5) 散会、懇親会会場移動

以上